

BEHIND PERSONS FOR THE FUTURE

2010年以降の注目アーティスト50
J.J.版ジャズ人名事典

本誌が創刊された2010年8月以降ジャズ・シーンは絶えず変化と進化を続けている。ここではますます多様化するシーンを紐解く2010年以降の活躍が顕著なキー・パーソン50名を「メインストリーム」「ニュー・ジャズ」「J-Jazz」の3つのカテゴリーに分けて紹介(※)。現代ジャズをより包括的に理解いただくためにぜひ押さえておきたいアーティストたちを俯瞰していく。

※=鈴木りゅうた、高井信成、柳樂光隆

【※アーティスト名の横には3つのカテゴリーとして】

メインストリーム系=MSJ ニュー・ジャズ系=NJ Jジャズ系=JJ を記載しております。

※※ 掲載はファミリーネーム(日本人の場合は名字)のアルファベット順となります。

NJ

Gretchen Parlato

グレッチェン・パラト (vo)



新世代を代表する声。
いまや女性ジャズ・
ヴォーカルを牽引する
存在になりつつある

「ライヴ・イン・ニューヨーク・シティ」(Obliqsound)

1976年、L.A.生まれ。ジェラルド・クレイトンなども輩出する名門高校LA・カントリー・ハイスクール・フォー・ジ・アーツを卒業後、カリフォルニア大学でジャズを学ぶ。2004年にはセロニアス・モンク・コンペティションのヴォーカル部門で優勝し、一気に注目を集め、その勢いそのまま2005年のデビュー作『グレッチェン・パラト』ではリオネル・ルエケやアロン・パークスを、2009年の『イン・ア・ドリーム』ではロバート・グラスパー、デリック・ホッジ、ケンドリック・スコットを起用し、良作を連発。2011年の『ザ・ロスト・アンド・ファウンド』ではグラスパーを共同プロデューサーに迎え、テイラー・アイグスティ、アラン・ハンプトンらを従え、ソウル、R&B、ヒップホップ、ロック、フォーク、ブラジル音楽といった要素を軽やかに横断してみた。またグレッチェンはゲスト・ヴォーカリストとしてジェラルド・クレイトン、テレンス・ブランチャード、マーカス・ミラーなどに起用され、新世代を代表する声として存在感を強めていく。2013年の『ライヴ・イン・NYC』ではケンドリック・スコット、マーク・ジュリアナなどを起用し、アコースティックなジャズ・ヴォーカルの枠内で刺激的なサウンドを聴かせ、グラミー賞にもノミネートされた。女性ジャズ・ヴォーカルを牽引する存在になりつつある。(柳樂)

